

二王子岳山行記録



目的地	二王子岳	期 日	平成 18 年 2 月 25 日 (土)
山行人	笠原正雄単独	特 記	本日一日だけの移動性高気圧をとらえて入山。

地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
与 板	午前 5:50 発	晴	高速利用。阿賀野川を渡ると、太陽が昇り始める。新発田が近づくうちに、白い飯豊が杵差側から見えてくる。鉾立峰の三角錐は紛うことは無い。
南 俣 集 落	7:15~7:35	快晴	走行 96 km。林道入口人家前に路側駐車。昨年より少し手前。先行単独者 2 人が歩き出す。一部ショーカットの杉林を歩く。清浄橋も圧雪およそ 1 m。
二 王 子 神 社	8:20~8:30	〃	トイレ。先行者の後姿を見送る。他に人気は無い。(結局入山者は 12 人)
神 子 石	9:10	〃	石は半分だけ雪から出ている。二又のトレース。右は尾根に取り付く坪足。左は下りスノーシューで一王子方向だ。左にのる。雪は固くなっていて沈むことはない。急登。途中で、右手の尾根を上がる男あり。一声を掛ける。
一王子神社脇	9:40	〃	表面の雪質が変わる。固い雪の上に薄くサラサラ雪が乗っている。
稜線に上がる	9:45	〃	尾根道と合わせる。楡形山脈が一望だ。そのはるか奥に朝日連峰。
定 高 山	10:20~10:30	〃	積雪計柱 4.5m。越後三山・荒沢前嶺を双眼鏡で確認。海の霞の上に佐渡ヶ島の山が白く浮かんで見える。鴨池の登りに 2 人見える。
鴨池の登り	10:50	〃	2 登目は直登を避け回り込むトレースに従う。風が強くなり雨具上衣着用。
油コボシの登り	11:00	〃	登りきると更に風が冷たくなる。この辺から木々にエビのシッポが着く。
靴が壊れる	11:15	〃	登山靴の両方共、先端底のゴムが剥がれてきた。鞍部の風が緩いところに来て固定のためにスノーシューをつける。しかし、この後の急登では、スノーシューがステップ切りを難しくして苦勞した。
山 頂	12:05	〃	山頂直前で単独者二人が下りて来た。一人と一緒に山を眺める。彼とともに燧ヶ岳の双耳峰を確認する。山頂に着けば、青春の門は風下が氷結している。山座プレートは僅か雪から頭を出すのみであった。飯豊が全部見える。写真撮影。日差しを受けるも寒い。
避難小屋	12:10~1:30	〃	6 人居た。ランチ。のちスキー登山の一人が来る。新潟か新発田からの者ばかりだ。彼らが使う火が消えると寒くなる。
下山開始	1:35	〃	6 人が出た後、フリースと雨具上衣着込んで外に出て、先ほどより良く見えるようになった飯豊をもう一度撮影する。スノーシューで下山。左手に蒜場山や高知山方向が良く見える。油コボシでケツ滑り。
定 高 山	2:10~2:25	〃	6 人に追いつく。フリースと雨具上衣着を脱ぐ。この後、スノーシューでの傾斜面の歩行は難しい。途中で定高山を先立ちした彼らを追越す。
一王子神社脇	2:35	〃	稜線からの急斜面を尻で滑り降りる。雪もクサリ始める。
神 子 石	2:50	〃	上山と同じコースを下りる。緩んだ雪で数度転ぶ。
二 王 子 神 社	3:15	〃	賽銭は持って来なかったが、雪を乗り越えて社殿前に進み参拝する。
南 俣 集 落	4:05~4:25	〃	直前の林道でスノーシューを脱ぐ。数分後 6 人も降りて来た。
与 板 着	7:00	〃	三条で高速を下り、ウェストに寄り道をする。

昨春やはり快晴の 4 月 10 日、この山を登った。季節は正直で 1 ヶ月半はそれなりに厳しい。しかし、白い飯豊は更に美しい。それを眺めながらランチといきたい所だったが、気温が低くて、すぐに小屋に入った。また、調子が良ければ二本木山までと欲張っていたが、靴の破損・寒い風・南俣からの林道歩き等でこれもかなわなかった。約 10 年前からの靴だ。水を通すようになったので別の靴を買ったが、足に馴染んで捨て難かった。今日でお別れだ。